

せいけん
詩集

第二十三篇

作：近藤せいけん

「今日(けふ)はいい日(ひ)」

朝(あさ) 四時(よじ)四分(ふん)に 目(め)が覚(さ)めた

「お(お)ろ目(め) 縁起(えんぎ)がイイゾ」

「今日(けふ)はいい事(こと)がアルゾ」

車(くるま)を運(うん)転(てん)して 会(かい)社(しゃ)にゆ(よ)く

気(き)持(も)ち は なぜ(なぜ)か ウキウキ

外(そと)は今日(けふ)も 青(あお)空(ぞら)

「お(お)はよう」の声(こゑ)もなぜ(なぜ)か 明(あ)るい

気(き)持(も)ちの 持(も)ち方(かた) 次(し)第(だい)で

一(いち)日(にち)は 楽(たの)しい

昼(ひる)ごはん 大(お)きな お握(にぎ)りと けんちん汁(じゆ)

味(あじ)わいながら 食(た)べる

「お(お)いしーい」とても お(お)いしーい」

なぜ(なぜ)か 気(き)持(も)ちは 一(ひと)人(り) 満(まん)足(ぞく)

微(ほ)ほえみながら

「今日(けふ)は いい日(ひ)だ」

気(き)持(も)ちの 持(も)ち方(かた) 次(し)第(だい)で

一(いち)日(にち)は 楽(たの)しい